ＪＲ東海労ニュース

№２１８６
２０１７年６月１８日
ＪＲ東海労働組合

『ZAITEN』葛西名誉会長の実態！シリーズ⑧

JR東海は”地元軽視”の企業

三島駅自由通路、名松線復旧、鳥飼車両基地地下水

葛西の直情径行な性格が反映されてか、**ＪＲ東海は”地元軽視”の企業**としても知られる。…（略）…三島駅には住民が南北を自由に往来できる通路がないのだ。…（略）…三島駅ないし付近に自由通路を設置することが同市の悲願となっており、これまでは市を挙げて協議を重ねてきた。しかし**結論は、通路計画の「凍結」**だった。

地元が再三にわたってＪＲ東海に（名松線の）早期復旧を陳情していたにもかかわらず、**ＪＲ東海側は安全性確保を理由に渋り**、結果、再開したのは昨年３月、実に６年半もかかった。ちなみに、**費用総額の３分の２以上は地元自治体の負担だ。**

大阪・摂津市と茨木市にまたがる鳥飼車両基地。同基地は国鉄時代、新幹線に使用するとして井戸から地下水を日量2000トン以上汲み上げた結果、これが原因と見られる**周辺の著しい地盤沈下が発生した**。そこで摂津市は地下水の取水を中止、上水道等を利用するよう要請。国鉄は77年、**同市と環境保全協定を結び**地下水の汲み上げを中止し、分割民営化以降はＪＲ東海との間で同協定は継承された。ところが14年秋、**ＪＲ東海は井戸の掘削工事を始めた**。…（略）…**摂津市は協定の遵守を求めたが、ＪＲ東海は応じなかった**。

カニは自分の甲羅に似せて穴を掘るというが、…（略）…この言に倣（なら）えば、現在のＪＲ東海はまさに葛西という親ガニが作った穴にほかならない。そして、穴に身を合わせなかった者たちは排除され、いまや**ＪＲ東海社内は葛西の作った穴に適合した子ガニばかり**のようだ。ただし外から見る限り、その穴はひどく窮屈で歪に思える。